

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

VIVA city

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報 111

VOL.
25

2020
April

特集 ● 講演会 / 研修会

文化講演会・学術講演会・会員学術研究発表

支部だより

加賀支部・金沢北支部 & 金沢南支部
能登支部

桃紅柳緑

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民俗医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。

ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

VIVA city

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報111

VOL.
25

2020
April

C O N T E N T S

1 巻頭言

心に響く無財の七施(むざいのしちせ) 堂本 義邦

2 [特集] 講演会／研修会

文化講演会

学術講演会

会員学術研究発表

9 支部だより

加賀支部

金沢北支部 & 金沢南支部

能登支部

10 トピックス

巻頭言

かんとうげん

心に響く無財の七施

自らを高め、信頼される柔道整復師に—

読者の皆様には、日頃より公益社団法人石川県柔道整復師会の活動に対しご理解ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。第3期も嶋谷清会長率いる体制のもと一層活動を充実させ、“目に見える成果”実現に向けて役員一丸となって邁進する所存です。

昨年10月より、県内17市町で柔道整復療養費の「乳幼児(子ども)医療費助成金制度・現物支給方式」が開始されました。また一昨年5月にスタートした厚生労働省「広告に関する検討会」の指針に沿った対応にも努め、“法の目をかいくぐる不適切な広告”を業界から一掃していかなければなりません。県民の求める情報が正確に伝わるよう広告の適正化を図り、柔道整復術の普及、啓発を推進していきます。

本年6月には公益社団法人日本柔道整復師会北信越学術大会石川大会が予定されており、開催に向けて肅々と準備を進めていかなければなりません。また東京オリンピック・パラリンピックにおいて本会は、加賀市で行われるポルトガル共和国柔道選手団の事前合宿で救護を担当することになっております。世界中で感染が拡大している新型コロナウイルスの影響で流動的な状況ですが、万全な体制で臨みます。

法の遵守、学術研鑽はもとより

柔道整復公認100年の節目を迎えた昨年、公益社団法人日本柔道整復師会では「匠の技 伝承」プロジェクトを立ち上げました。伝統の整復技術と心を未来につなげるためにも、会員同士で研鑽を深め、日々の施術の向上を目指すことは大切です。



■堂本 義邦

(どうもと よしくに)

(公社)石川県柔道整復師会 副会長

【プロフィール】

平成11年より理事を務めその間に、能登支部長、経理部長、総務部長を歴任。

平成27年4月に副会長に就任する。

仏道修行に「ありがとう」「お陰様」の気持ちを行動で表す実践として「無財の七施」があります。

- ①眼施(げんせ) …優しい眼差しで人に接する
- ②和顔悦色施(わげんえつじきせ) …にこやかな顔で接する
- ③言辞施(ごんじせ) …優しい言葉で接する
- ④身施(しんせ) …自分の身体でできることを奉仕する
- ⑤心施(しんせ) …他のために心を配る
- ⑥床座施(しょうざせ) …席や場所を譲る
- ⑦房舎施(ぼうじゃせ) …自分の家を提供する思いやり

施術で患者様の身体を癒す私達が、自らを高め他の人々と支え合うことができれば、患者様の心にも癒しの灯をともしられるかもしれません。「伝承の技」を後世へつなぐためにも、地域の皆様の健康増進を願いコミュニケーションを図り、人として信頼される柔道整復師を目指し、公益社団法人として社会に貢献して参りたいと存じます。

皆様にも、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

seminar& lecture meeting

学び▶活かし▶情報を発信

[特集]

講演会／研修会

ハツラツと元気な毎日を支えるため— 施術者としての心、 スキルに磨きかける

公益社団法人石川県柔道整復師会では、さまざまな講演会や研修会を通して会員一人ひとりが施術技術の向上に努めるとともに、地域の皆様の健康に役立つ情報の発信に努めています。

文化講演会

開催日■令和元年11月10日(日)

会場■金沢市保健所

挑戦し続ける大切さ

私が飛び込みから学んだこと—

講師／元オリンピック高飛び込み日本代表
中川 真依先生

令和元年11月10日(日) 午前10時より金沢市保健所3階大ホールにて、文化講演会が開催されました。本年度の講師は、小松市出身のオリンピック 中川真依さん。高飛び込みの日本代表として2008年の北京、2012年のロンドンと2大会連続でオリンピックに出場されました。現在は多くの著名なアスリートとともに、子どもたちに夢を与える講演活動を行っています。昨年講師をお願いしたパラアスリートのマクドナルド山本恵理選手に続いて今回もスポーツの素晴らしさを語って頂き、会員と一般の参加者約120名が熱心に耳を傾けていました。

まず、中川さんご自身のプロフィールから講演がスタートしました。5歳で始めたトランポリンをきっかけに、7歳から飛び込みの世界へ。15歳で世界ジュニア選手権出場を果たし、17歳でインターハイ、国体、日本選手権を次々



PROFILE

高校時代に日本選手権を2連覇、世界選手権に出場する。国体では通算17回の優勝を誇り「飛び込みの女王」として活躍した。現在は飛び込み競技で得た経験をもとに、新しい可能性を育む活動、スポーツの素晴らしさや感動を多くの人々に伝える活動を行っている。

と制覇、金沢学院大学に進学後の2008年に北京オリンピック、2010年にワールドカップ、2012年にロンドンオリンピックに出場し輝かしい戦績を残されています。そして講演は、動画を交えながら「飛び込み競技」の説明へ。高飛び込みの台の高さは10mとビルの4階に相当します。その高さから時速60kmのスピードで落下し入水までのわずか1.4秒間の演技を

競います。女子の場合一試合で5回の演技を行い、空中の演技だけでなく、飛び込む前の姿勢から入水までを採点されるという、凄まじい緊張感を持った競技です。

しかし本当の講演はここから。2004年に結果を出し始めて以降、2016年のいわて国体を最後に現役を引退するまでトップアスリートとして走り続けた中川さん。「日本では敵なし」と言われながらも、襲ってくる数々の精神的・肉体的なスランプやケガなどと常に闘ってきました。特にロンドンオリンピックでは、大会を前に陥った極度のスランプを乗り越えるためにメンタルトレーニング法を導入、さらに持病の腰痛を抱えての出場となりました。また、リオオリンピックを目指して単身アメリカに渡った時は、そこで出会った友人の助けが競技を続ける原動力になったとのこと。華やかな活躍の陰で、私たち一般の観戦者には想像もできないような苦闘があり、自分を信じてくれる人たちとの出会いやその期待に応えるための努力が、逆境を克服し結果を残す鍵になったとお話してくださいました。

「国際審判の資格を取得しオリンピックの審判をすることが現在の夢」と語る中川さんは、2歳になる女の子を持つお母さんでもあります。会場から質問があった子どもの教育方針とスポーツ指導に対しては、「夢(目標)をもって小さな成功体験を積み重ねることで自分に自信を持つこと。物事には全て克服するための意味があることを、子どもたちに伝えていきたい」と丁寧に答えて頂きました。また、講演が終わった

競技を超えたアスリート同士の交流も大きな励みになっていた。



手話通訳もリアルタイムで行われた。



後もトランポリンをしている女の子の練習の悩みに耳を傾け、克服のポイントなどを親身にアドバイスしている姿がとても印象的でした。

今年の東京オリンピック聖火リレーで石川県内を走るランナーに選ばれた中川さん、スポーツの楽しさを伝えるオリンピックとしての役割をまた一つ果たそうとしています。勝手な希望ではありますが、今後はご自身の夢である審判としてオリンピックにかかわるだけでなく、県内で頑張っている飛び込み選手の指導にもあたって頂き、新たなオリンピックを生み出して欲しいものです。

これからもさらなるご活躍を期待しています。

トランポリンをやっているのですが、どうやったら課題を克服できるか分からなくて悩んでいます。

講演会終了後、トランポリンの練習で悩む女の子の質問に親身に答える中川さん。その視線が優しい。



何が問題かを明確にして、それが得意な子の演技を見習ったり先生に相談することが大切よ。自分だけで抱え込まずに、みんなに助けてもらいましょう。

学術講演会

開催日 ■ 令和2年2月16日(日)

会場 ■ 石川県地場産業振興センター



身近な病気、 てんかんを知りましょう 北陸のてんかん医療連携を目指して—

講師／脳神経外科医 大西 寛明先生

PROFILE

1991年 浅ノ川総合病院 脳神経外科部門設立
1997年 ガンマナイフセンター設立
2004年 ノバリスセンター開設(国内1号機)
2005年 金沢大学医学部 臨床教授
2012年 浅ノ川総合病院 病院長
2017年 脳神経外科支援サイト「おんな川」設立
現在はフリーランスとして、専門医の育成や一般の方も参加できる“てんかん症例検討会”開催など、北陸のてんかん医療に尽力されている。

令和2年2月16日(日)午前10時より、石川県地場産業振興センターにて学術講演会が開催されました。会員と一般からの参加者約90名は、北陸におけるてんかん治療の第一人者である大西先生から、身近な病気でありながら誤解や偏見を持たれることの多い「てんかん」について学びました。

てんかんとは、脳細胞が通常とは異なる活動をすることで引き起こされる病気です。我が国における患者数は約100人に1人(約1%)と推定され、臨床医が日常診療の中で頻繁に遭遇する病気の一つです。

てんかんは“全般性”と“焦点性”に大別されますが、正確な診断分類に基づいて適切な抗てんかん薬を投与された場合、10人中7人は発作を完全にコントロールできます。

外来診療でしばしば問題になるのは「見せか

けの薬剤抵抗性てんかん」です。最初の診断の段階でてんかんの分類を誤ったことによる不適切な投薬や、患者個人の事情による服薬アドヒアランス※¹の不良などがその原因に挙げられます。また、心因性、失神、不整脈などで生じる非てんかん性発作をてんかんと誤認して、不必要な抗てんかん薬を投与されている患者さんも少なくありません。時間が限られる外来診療と発作を起こしていない通常時の脳波だけでは診断に苦慮することが多く、その場合は、長時間ビデオ脳波モニタリングによる解析が確定診断に有用です。



発作が起きた時の症状、診断の分類について丁寧に説明をされた。



患者数が100人に1人と、施術所で遭遇する可能性も高い身近な病気だけに会員の関心も高かった。

一方、10人中3人は投薬による発作のコントロールが不良な薬剤抵抗性てんかんであり、日常生活に大きな支障がある場合は手術の検討をお勧めしています。



ここ数年前、てんかん患者が加害者となる痛ましい交通事故が続き、ニュース等で盛んに報道されました。大西先生は、てんかん患者さんの様々な症状のパターンや対処法などを動画を交えて丁寧に分かりやすく解説され、

多くの人々がこの病気に対して持っている誤った認識を一掃してくれる、たいへん為になるお話でした。

現在、北陸には9名の専門医しかおらず、てんかん手術に対応されているのは大西先生お一人だけとのこと。講演の最後に、大西先生の外来診療日と医療機関の案内があり、本会会員が業務の中で日常的に遭遇し得る病気でもあることから、医療連携を呼びかけられました。

参加した会員からは「てんかん発作には口にタオルを突っ込むなどの間違った対処法が常識になっていますが、先生の話しを聞き目から鱗でした。今日の講演で得た知識を生かして、今後はきちんと対応したい」との感想もあり、聴講された一般の方にとっても役立つ有意義な時間でした。

※1 服薬アドヒアランス

患者さん自身が自分の病気を受け入れて、医師の指示に従って積極的に薬を用いた治療を受けること。



講演会終了後、広報部長が大西先生にインタビュー！終始にこやかな笑顔でお答えくださいました。

Q てんかんについて一般の方に伝えたいこと、知っておいてほしいことは何でしょうか。

A てんかんは精神病でも遺伝する病気でもありません。たまたま何らかの原因で脳に傷ができ、そこから異常脳波が出て発作を起こす病気です。適切な診断と投薬により支障なく生活できる普通の病気です。

Q 他に先駆けて、ガンマナイフセンターやノバリスセンターなどを設立されました。大変な決断とご苦労があったと思いますが、これを動かす先生の医療への信念をお聞かせください。

A 医療の現場でも高齢の患者さんが多くなり、身体に負担となる治療は良い結果を残しません。「頭を開かず身体に負担の少ない治療」。高齢化が進む日本では、こういった侵襲性の

少ない治療がテーマだと考えています。

Q 医師と柔道整復師の関係はどうあるべきとお考えでしょうか。

A 患者さんには日々のメンテナンスが必要です。医師は診断と治療で終わってしまいがちですが、柔道整復師は更に密接に患者さんと付き合っておられます。施術も大切ですが、患者さんが何を訴えどうしてほしいのか？場合によっては、もう一度医師に戻した方が良いのではないかなど患者さんに寄り添って考え、患者さんを介して医師との良い関係を築いてほしいと思います。



会員学術研究発表

開催日 ■ 令和2年2月16日(日)

会場 ■ 石川県地場産業振興センター

学術講演会終了後、会員学術研究発表が行われました。これは、6月21日(日)に開催される公益社団法人日本柔道整復師会北信越ブロック学会石川大会で本会から発表する代表者1名を選考するもので、3名の会員が一年間の研鑽・努力の成果を発表しました。

※発表抄録より一部抜粋



Haglunds Deformity 超音波画像観察装置を用いた後踵骨部 骨性の膨隆(ハグルンド変形)について

金沢北支部 大平 和幸会員

【はじめに】

ハグルンド変形とは、後踵骨結節部にできるコブのような骨性の変形のことを言う。靴の踵を支える硬い部分に軟部組織が繰り返し圧迫を受け発生。踵骨後方部に疼痛・圧痛・骨性の変形が認められた3症例に対して超音波画像観察装置(エコー画像)を用いて観察、文献的考察を加え報告する。

【症 例】

症例① ■ 16歳・男性(学生)

〈主訴〉長時間の野球スパイクシューズ装用時に疼痛増悪。両側踵骨後上外側部の疼痛、腫脹、発赤。

〈経過〉2年前に両側の踵骨部の疼痛・突出に気づき当院で施術していたが、エコー画像にて皮膚の腫瘍で胼胝や滑液包炎を観察。スパイクシューズを変え、疼痛が消失した。

現在、野球練習後はスパイクシューズの圧迫刺激により皮膚が赤くなるが疼痛はない。

症例② ■ 56歳・男性(自営業)

〈主訴〉ゴルフにて右踵骨外側部の腫脹・足関節底屈及び内反の疼痛・つま先立ち困難。

〈経過〉エコー画像にて右踵骨部の腫脹と左右踵骨部の骨性隆起を確認。施術にて歩行時疼痛はほぼ消失するが、起床時と運動後の疼痛は残存する。左踵骨部にも骨性隆起が認められる。

症例③ ■ 50歳・男性(自営業)

〈主訴〉右踵骨外側部の腫脹・疼痛・発赤・歩行時痛。

〈経過〉エコー画像にて左右踵骨部の骨性隆起と骨棘を観察。マラソン練習中に、踵骨外側部の疼痛が出現した翌朝、痛みで歩行困難となった。練習を中止したことで徐々に疼痛軽減し、2か月間経過観察。大会が近づきランニングを再開したが、約500メートルで疼痛が再発し断念する。

【考 察】

ハグルンド病はスウェーデンの外科医パトリック・ハグルンド氏が1928年に症例を報告したもの。発症のきっかけは様々で、先天的な踵骨や足の形の異常、スポーツによるオーバーユース、靴による圧迫や摩擦などが考えられる。ハグルンド症候群は、ハグルンド

病に加えアキレス腱付着部の腱炎や滑液包炎も含めた病態を指す。難治性であり、骨性隆起の大きいものは速やかに専門医に紹介するという選択も必要である。

【まとめ】

施術の第一は靴による圧迫を避けることであり、初期症状ではサンダルやヒール部を踏んで使用できるスニーカーを履き、靴のヒー

ル部に保護パットを当てるなど、圧迫摩擦刺激から踵を守る必要がある。

問診、視診、触診と同時に超音波画像観察装置で患部を観察出来ることによって、炎症による腫脹か骨性による膨隆なのかの判断が可能となり、施術方法を決定するうえで有効だが、確定診断は専門医に委ねる必要があると思われる。



肩関節可動域改善とパフォーマンス向上

金沢南支部 田中 寿人会員

【はじめに】

スライドボードを使って肩関節可動域の改善を目指し、さらにゴムチューブで肩関節周辺の筋肉を強化することによりケガの予防につなげることを目的とした運動療法を行い、良好な結果を得たので報告する。

【方 法】

15歳男性(柔道部員)に週3回、次のとおり肩関節の運動療法を行った。

- ①スライドボード使用▶1セット10回とし、痛みなどの状態に応じてセット数などを変更する。
- ②ゴムチューブ使用▶痛み軽減・可動域改善に伴い負荷強度を変更する。

【まとめ】

今回は肩関節の可動域を改善することによってスポーツのパフォーマンスを向上させることを目指して、施術、運動療法を行った。今回の研究対象は柔道選手だったが、肩を多く使う全てのスポーツに有効と考える。

さらにスポーツ選手に限らず、一般の方や高齢者の肩関節疾患にも同等に運動療法を行

った結果、可動域が広がることにより「痛みが軽減した」「肩が軽くなった」などの声をたくさん頂いた。これからも、運動療法の視点を生かしながら体のいろいろな関節可動域を改善させることで、より多くのスポーツ選手や一般の患者様のサポートをしていきたいと思う。

文武両道 田中寿人会員が 本会代表の発表者に決定!

本年6月21日(日)に北信越学術大会での発表者には、田中寿人会員が選出されました。

なお、田中会員は学術大会前日に行われる北信越ブロック柔道大会にも代表選手として出場する予定です。

本会代表発表者に選出して頂きありがとうございます。地元石川県開催という記念すべき年の学術大会で発表をできるとは、大変な名誉であり最高の喜びです。本会代表の名に恥じぬよう、またご指導、応援をしてくださった方々の期待に応えられるよう頑張ります!

田中 寿人



暴走自損事故の一症例

加賀支部 高熊 二夫会員

【はじめに】

今回、自損事故による一症例への当院での対応と、日ごろ経験している所見を基に考察を加えて報告する。

【負傷原因と主訴】

60代男性。運転席のドアを開けて後方確認しながら後退した際に突然スピードが上がり、外壁に衝突して負傷。当日、病院に受診するもレントゲンに異常なし。負傷9日目に来院。腰部・右股関節・右膝関節それぞれに硬結・運動痛・運動制限があった。

【考 察】

所見時の右股関節や右大腿部の硬結は、受傷9日目の症状としては不自然に思われた。問診によると、30年間のトラック運転手を退職し、現在は厨房で長時間の立ち仕事をしている。また睡眠時は、左向き側臥位で背後からエアコンの冷風を当てていたとのこと。

【施術の指針と実際】

右股関節硬結・右大腿部硬結への対応(股関節内転・膝関節屈伸制限の解消)を主眼に

行った。

- ①仰臥位にて下肢を内旋外旋し右股関節・右大腿部硬結の解消。
- ②股関節・膝関節とも直角位で大腿を軽く末梢牽引しつつ股関節の屈伸・内転・外転。
- ③立位で大腿部を水平近くまで振り上げ片足モモ上げ。
- ④スポーツタオルをロール状に巻いて左右の臀部下方を圧迫。
- ⑤冷風を身体に当てないこと、股関節の内転予防に側臥位では下腿部の間に座布団などを挟むよう指導。

【まとめ】

今回のキーワードとなる「右股関節周囲の硬結」「右下肢の硬結」「右足関節底屈位」により、オートマチック車でドアを開けて後方確認をする際に右座骨への加重となり、アクセルを緩める・離す、ブレーキを踏むという一連の動作ができない状態が短時間で生じたのではないかと推測される。近年、多発する暴走事故の原因の一側面とも思われ、同様の症例を経験されたらぜひ、ご報告を。皆様と共にさらに検討を重ねたいと存じます。



発表者の皆さんに表彰状が贈られた(写真左から田中会員、二ツ谷副会長、高熊会員、太平会員)。

支部だより

加賀支部

加賀支部会員親睦会・保険講習会 会員同士、和気あいあいと…

令和2年1月11日(土)午後7時より「菜香厨房小松店」において、令和元年度加賀支部会員親睦会が開催されました。日頃より本会にご理解とご協力を頂いている森田病院 森田知史院長をお迎えし、支部会員22名が参加。二ッ谷剛彦保険担当副会長と西川典孝保険部長にもご出席頂き、嶋谷清会長の挨拶の後、親睦の杯を重ねました。



森田院長からご挨拶を頂いた。



支部会員30名が参加して行われた保険講習会。



二ッ谷副会長(左)と西川保険部長。

翌12日(日)午前10時より、小松市第一地区コミュニティセンターにおいて二ッ谷副会長、西川保険部長による保険講習会が行われ、支部会員30名が集まりました。「保険取扱いについて、その他」というテーマに沿って、申請書の様式変更や療養費の改定、子ども医療費助成制度、生活保護等について詳細な説明があり、質疑応答が盛んに行われるなど有意義な講習会となりました。

金沢北&南支部

金沢北支部・金沢南支部合同で保険講習会 新春懇親会で和やかに一年をスタート

令和2年1月19日(日)午後3時30分よりホテル金沢において、金沢北支部・金沢南支部合同 保険講習会・新春懇親会が開催されました。

保険講習会では、西川保険部長から保険の取扱いにおける変更点や、昨今の審査会の状況などが詳しく説明されました。参加した約110名の会員は皆、真剣そのもので聴講し、質疑応答の時間でも積極的に質問をしていました。

午後5時から、新春懇親会がスタート。会場を隣に移して、保険講習会とは全く違った和やかな雰囲気の中で開宴しました。初めに西川典孝金沢南支部長が挨拶を行い、続いてご来賓の碓井貞成北信越柔整専門学校校長、嶋谷清会長よりお言葉を頂き、西徹夫本会顧問による乾杯のご発声で歓談が始まりました。ビンゴゲームなどで楽しいひと時を過ごし、最後は堂本義邦、二ッ谷剛彦両副会長、金田豊茂、西川典孝両支部長がステージに上がり、元気の良い万歳三唱で閉宴となりました。

※なお、昨年11月16日(土)には金沢南支部単独の保険講習会を実施。午後6時30分から白山市民交流センターに多数の会員が集まり、メモを片手に西川保険部長の説明を真剣な表情で聞いていました。



説明を聞く会員の表情は真剣そのもの。



威勢よく元気に万歳三唱!

能登支部

能登支部会員保険講習会 能登和倉万葉の里マラソンサポート 事前研修会も同時開催

令和元年11月30日(土)午後3時から和倉温泉「宝仙閣」にて保険講習会が開催され、能登支部会員22名が参加しました。西川保険部長から、制度の変更や改定のポイント、保険の現状、データで見る柔道整復師・施術所・国民医療費等について説明がされた後、会員からの質疑応答が行われました。



西川典孝保険部長。

保険講習会に続いて、赤池敬順会員を講師に能登和倉万葉の里マラソン事前研修会を開催。「ケア活動」における「救護」について講義を行って頂きました。今後のマラソン大会でのサポート活動に対する「考え方・在り方」についての再確認と提案、また傷病者を運ぶスパインボードの必要性など、いろいろ考えさせられる講習会となりました。



赤池会員を講師に能登和倉万葉の里マラソンの事前研修会を実施。

能登和倉万葉の里 マラソン2020が中止に

令和2年3月8日(日)に開催が予定されていた「能登和倉万葉の里マラソン2020」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。日に日に感染者が増え、各地でのイベント中止のニュースが毎日のように報じられていた2月18日、参加ランナー、ボランティアスタッフの安全を考えて大会組織委員会が決断を下したものです。

この大会でのケア・サポートを予定していた本会としても中止は大変残念ですが、来年に向けてより良い活動が出来るよう準備してまいります。

Topics

嶋谷会長、堂本副会長が 国民健康保険中央会より表彰

令和元年11月19日(火)石川県幸町庁舎4階 石川県国保連合会会議室において、本会の嶋谷清会長と堂本義邦副会長が国民健康保険中央会より表彰されました。

この表彰は、多年にわたる国民健康保険事業及び介護保険事業の振興への尽力と功績が顕著であったと認められ、その業績を称えて贈られたものです。

誠にありがとうございます。今後ますますのご活躍を祈念いたします。



嶋谷 清
会長

堂本 義邦
副会長

❖ある土曜日の夕方に、家族で近所の回転寿司に行った。普段なら客が常に見つ人気店だが、コロナウイルスのお陰で(?)即入店できた。客席の3分の1も埋まってないし、寿司も回っていない。こんなに影響があるものかとしみじみ感じた。ところが濃厚接触業務である我が仕事場にきてくれる患者さんは、9割以上の方が着けているマスクを施術所の中で外す。これは何か特別な安心感(?)なのか、それとも開き直りなのか…。ありがたいと思う反面、自分がマスクをしてはいけない状況であることは間違いない。

いつもお世話になっている保険代理店に「濃厚接触者に休業補償は対応できるの?」と聞いてみよう…。

(真酒谷)

❖今年度、子どもが通う小学校のPTA会長をやらせて頂いた。初めての会長挨拶は不安と緊張で何をしゃべったのか覚えていない。だが、いろいろな活動に会長として参加させて頂き貴重な経験もできて、今はやって良かったと思っている。先生方、保護者、また地域の皆様を守られて子どもたちが成長していくのだと改めて感じた。この編集後記を書いている数日後にPTA会長としての最後の仕事、卒業式での祝辞がある。最後はビシッと決めてこようと思います!

(山田)

❖去年の同窓会でのこと。「私たちの時代のアイドルやらスターやらがいっぱい集まるコンサートに行ってるけど、みんな姿勢もいいし、お腹も出とらんし、ミニスカートで踊って、やっぱ芸能人は違うな—」と思ってん。でも出口で、見送りに並んだのを近くで見たら『あちゃー』やったわ。その「あちゃー」の皆さんが、今年は能登で集まります。8500円払って行くべきか行かざるべきか。人生は幾つになっても迷うことばかりです。

(中野)

❖今世間は、新型コロナウイルス関連の情報に振り回され大混乱。私も二酸化塩素で消毒しながら、効果不明な薄〜いマスクを再使用し続けているという有様です。ああ、このままではオリンピックも中止、あるいは無観客開催ということになるのかな。しかしここに至っても、なんだか映画みたいで実感がわかない。と言うか、あれ?花粉症の方をより心配している自分がいるぞ。

(五十嵐)

❖昨年の秋頃から、我が家に一羽の鳥が住みつきました。ハヤブサの仲間で、その名は「チョウゲンボウ」。鷺やフクロウと同じ猛禽類なのですが、実はインコや雀の親戚だとか。彼らは獲物を食べた後、消化しきれない体毛や骨を「ペレット」として、口から吐き出します。従って我が家の一角は尿とフンとペレットまみれ。3月の中頃、気が付くと姿を消していました。「立つ鳥跡を濁さず」と言いますが、やれやれといったところです。

(太田)

❖新型コロナウイルス感染拡大で、マスクが足りない状態が続いています。日本のマスクの起源は大正時代に作られた粉塵よけの工場用マスクで、真鍮の金網に布地を取り付けてあったそう。1919年のインフルエンザ大流行をきっかけに予防品として注目を集めるようになってから改良が進み、1934年にインフルエンザが猛威をふるった時に爆発的に利用されたそうです。ちなみに今の平型マスクの形になったのは、1948年頃だとか。

(唐木)

❖先日、中1の息子と化石採掘に出掛けました。金沢市内には数か所、主に貝殻の化石を採掘できる場所があるそうです。息子と行った大桑の犀川河川敷にもビックリするほどたくさん埋まっていた、親子ともども夢中で採掘しました。最近はバレー漬けの日々で日曜も家で過ごすことがあまりなかった息子と、親子の時間を持つことができました。コロナウイルスによる活動自粛で我慢の日々を送る中、良いこともあるなと思えた一日でした。

(平林)



ビバ・シティVOL.25 石整広報111 (2020年4月20日発行)

■発行所／公益社団法人石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26

TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196

E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

■発行者／嶋谷 清

■編集者／真酒谷 清・山田 誠・中野 秀人・平林 祐一・太田 信幸・唐木 均・五十嵐 久智



撮影 加賀支部 佐藤 裕之会員

使用カメラ:NIKON D5300

レンズ:NIKKOR18mm-250mm

絞り:f/11 ISO:320

撮影場所:福井県大野勝原 花桃の里

〔桃紅柳緑〕

桃の花言葉は「天下無敵」。古事記に登場するイザナギノミコトが桃の実を投げつけて鬼女を退散させたという逸話から、この花言葉がつけられたとされています。また、たくさんの実(子ども)をつけることから強い生命力の象徴といわれ、「桃太郎」の元にもなったとか。中国では仙木とも呼ばれ邪気を払う力があると考えられていた桃の花に、コロナウイルスに立ち向かい退散させ、平和な世界を取り戻したいという願いを込めました。



公益社団法人 石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26

TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196

E-mail ishiju@spacelan.ne.jp